

「音楽の街—狛江」の推進役として様々な活動を続けている音楽の街—狛江 エコルマ企画委員会会長の木津陽介さん(41)に話を聞いた。

音楽の街—狛江 エコルマ企画委員会とは■音楽は多様なジャンルとコラボレーションすることが可能で、演奏者から聴衆まで立場の違う多くの人に関わることができます。狛江市内には著名な音楽家が多く住み、市民の音楽活動も活発です。こうしたことから、狛江市では誰もが楽しめる音楽を取り入れた街づくりを進めるため、平成18年度に「音楽の街—狛江」構想を策定しました。私は音楽大学を卒業して数年たった頃、公募に応じて構想策定委員会の委員になりました。委員の中には指揮者の榊原徹さんやプロ、アマのバンドマンなど様々な人が



音楽の街—狛江 エコルマ企画委員会 会長 木津陽介さん

いました。19年度に構想実現のため「音楽の街—狛江」推進事業実行委員会が発足しました。委員は早く活動をしようという気持ちが強く、予算はありませんでしたが、出演者にはボランティアをお願いして狛江駅北口交通広場で駅前ライブ、市役所でロビーコンサートを開催しました。22年に事務局が地域活性化課から一般財団法人狛江市文化振興事業団へ移り、事業の推進役として現在の名称に変わりました。この時から私が会長を務めています。委員は13人おり、私を含め4人が構想委員会からのメンバーです。任期は2年で、メンバーは時々変わります。主な活動内容は■構想では音楽があふれる街をめざして、聴く・演奏する・知るの3つの楽しみに加え、音楽の輪を広げることが目的にしています。具体的には年6回の駅前ライブ、年3回の市役所ロビーコンサート、年1回の議場コンサートのほか、高齢者施設や病院、福祉施設などに出向いて演奏するエリアコンサートを年5回程度、「音楽の街—狛江」のシンボルコンサートとして文化フェスティバルを催してい

幅広い世代に活動を広げるため、様々な事業を展開したい

ます。また、児童・生徒の音楽活動をサポートするため、市内の小・中学校10校に隔年でプロの音楽家による訪問公演を実施し、合唱や吹奏楽の指導などワークショップも取り入れています。学校へのサポートとして、中学校の吹奏楽部などがコンクールに出演する際は、練習場所としてエコルマホールの舞台の提供や、プロの指導、楽器専門店による調整を行い支援しています。

委員会は毎月1回開催し、事業計画の立案、イベントの内容確認や総括などを行います。事業が多いので、委員は駅前ライブ・ロビーコンサート、学校関連、エリアコンサートの3チーム分かれて活動し、それぞれ出演交渉やイベントの準備、片付けをしています。昨年は、市制施行50周年記念に関連した音楽イベントを予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大で事業の中止や入場制限をしたため、多くの市民や私たちにとっても残念な年になりました。

音楽との出会い■小さい頃から家のピアノを弾いており、小学3年から習い始めました。中学2年の時、吹奏楽部に入部して打楽器をやり、高校の吹奏楽部ではクラリネットを担当しました。高校2年の時、幼児の頃から好きだった料理と音楽のどちらに進むか考えた結果、中学の頃からはまっていたクラシック音楽の道に進むことを決め、音楽大学への進学を決めました。音大入学後は指揮者とソロ演奏家を目指して学びました。

クラリネットは低音域、中音域、高

音域とそれぞれ特徴的な音色がありながらも、温かく柔らかい音色が人間の声に近いとされているところが好きです。クラシックをはじめ音楽全般が好きですが、強いて言えばバッハ、モーツァルト、ブラームスの作品が好きです。

今後の課題と将来に向けて■現在の委員会は狛江市文化振興事業団の諮問機関のような存在で、10年以上活動してきました。徐々に事業を増やし、安定して事業の継続ができるようになりました。

昨年はコロナ禍の影響で活動を知ってもらう機会が減り、ことしもその影響が続きます。秋にはエコルマホールの大改修があり、ホールが使えなくなるため、新しいチャレンジも必要です。この10年で、狛江市は

市民の高齢化が進む一方で、新しく越してきた子育て世代が増え、人口構成が変わりましたので、これまで活動を支えてくれた市民を大切にしながら、幅広い世代に活動を広げるために、気軽に参加できるワークショップを増やすなど、様々な事業を展開したいです。

木津陽介さんの横顔=世田谷区に生まれ3歳で狛江へ転居。狛江第五小学校、狛江第四中学校、都立国立高等学校を経て洗足学園音楽大学器楽専攻クラリネット科卒業。クラリネットを杉本毅氏、高橋知己氏に師事。現在、フリーのクラリネット奏者としてオーケストラ、室内楽、吹奏楽など演奏活動の傍ら、中学校、高校の吹奏楽部の指導、楽曲のアレンジ活動なども行っている。横浜クラリネット合奏団/バスケット奏者で、平成19年に同合奏団25周年記念CDをリリース。22年に音楽の街—狛江 エコルマ企画委員となり会長に就任。コマラジ「狛江クラシック・ラウンジ」のパーソナリティーを務める。母と2人暮らし、趣味は料理。



Shop & Service Guide いらっしゃいませ

セイシン

(有)セイシンは宝飾品、眼鏡、時計の専門店です。50余年の歴史を持つ老舗。和泉多摩川商店街に本店、狛江駅南口ロータリーに狛江店がある。

落ち着いた雰囲気の内には主力の宝飾品や眼鏡、時計、補聴器に加え、国内アパレルメーカーの1点も

のの婦人服やバック、靴などが展示されている。店内にはゆったりと座って品物をお確かめられるコーナーも設けられ、おしゃれ好きな女性のニーズにこたえている。

地域密着で良い商品を安心価格で提供するのがモットーで、宝飾品は手頃な価

格で販売している。デザインが古くなったジュエリーのリフォームや地金の買い取り、下取りも行っている。眼鏡はブランド品のフレームも数多く揃えており、コンピューターを使った視力検査の機器を備える。腕時計は国産の時計を中心に扱い、電池交換にも気軽に応じており、ロレックス、オメガなど舶来時計のオーバーホールにも力を入れている。

宝飾品の展示会を毎月店内で催すほか、年2回、エコルマホール6階展示・多目的室などで展示販売するフェアも好評だ。

同店は現社長の金田清孝さん(46)の父の清さん(故人)と叔父の信男さん(80)がふたりの名を1文字ずつ取って「清信堂時計店」として和泉多摩川駅に昭和41年に創業、55年に現在の店名に変更、宝飾品など扱う

宝飾品や眼鏡、時計扱い50余年 本店がリニューアルオープン



眼鏡、時計、宝飾品、婦人服などが並ぶ店内

● 狛江店 = ☎3480-8972 東和泉1-30-2 ● 本店 = ☎3480-8463 東和泉3-12-6 営業=午前10時~午後7時 水曜日休み

絵手紙による街づくりをサポート

狛江—絵手紙サポーターは、「絵手紙発祥の地—狛江」事業をPRし、絵手紙のいっそうの普及を目指して平成20年にスタートした。

現在、487人のサポーターが全国各地から春夏秋冬の季節感にあふれた絵手紙を「絵手紙発祥の地—狛江」実行委員会へ送っており、年間数百点に達する。

寄せられた絵手紙は、市内の商店や事業所などにある絵手紙街角ギャラリーに

展示されるほか、狛江市のホームページなどに掲載されたり、絵手紙関連イベントなどにも使われるなど、絵手紙を通じた街づくりに貢献している。

また、活動の発展を図るため、サポーターの交流を目的とした「狛江—絵手紙サポーターのつどい」を25年度から開催、全国から多くのサポーターが訪れる。

ただ、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、開催を断念。



絵手紙サポーターの輪

その代替措置として初の「紙面によるサポーターのつどい」をコンセプトにした冊子『絵手紙サポーターの輪』が発行された。

A4判12ページの冊子には、予想を上回る100点以上の作品が全国のサポーターから寄せられ、誌面を飾った。受け取った



金田社長(右)と本店店長の岩崎崇さん

商品を増やし、都心へ買い物に行けない地元の女性を中心に顧客を増やした。

金田社長は大学卒業後に都内の宝石卸メーカーや大手眼鏡店などで働きながら商品知識を学び、平成15年に家業に就いた。16年にオープンした狛江店の店長を務め、23年に社長に就任した。

本店は現在、改装工事を行っており、13日目にリニューアルオープンする。

金田社長は「ゆったりと落ち着いたショッピングを楽しんでいただけるよう心がけています。宝飾品と眼鏡が主力商品だと敷居が高く思われがちですが、時計の電池交換や眼鏡の調整などで、気軽に立ち寄ってください」と話している。

ひろがれ 絵手紙の輪

サポーターからは「よくできています」「他の人が絵手紙を始めたきっかけがわかって良かった」「宝物にします」などという声が寄せられ、好評だった。

実行委員会では、絵手紙サポーターの募集を随時行っている。

申し込み・問い合わせ ☎3430-4106 一般財団法人 狛江市文化振興事業団。